

編集後記

昨年はJTEKT元年として、全社一丸となって努力した結果、新会社は順調なスタートをきることができました。また、目標より早く今年度で売上げ規模が1兆円を超える大企業となり、それに伴い、会社はより安定的な成長を目指せる一方、社会や地球環境保護などに対する責任も一段と高くなると社員の一人として考えております。

今後は、編集委員の一人として、本誌を通じて会社内外の人々に当社の優れた新技術・新製品を紹介し、会社の知名度向上に貢献していきたいと思っております。(楼)

昨年1月にJTEKTが誕生してあつという間に1年が過ぎていきました。私は、ステアリング事業部業務統合の第1歩である新技術部品表システムの構築に携わってきましたが、合併後1年では、新システムの稼働は実現できませんでした。旧光洋、旧豊工がそれぞれ異なる歴史と実績を持っており、その両者(社)を融合するということの難しさ、新しいものを構築していく難しさを痛感した一年でした。今は、5月のシステム稼働を目指して多忙を極めていることでしょう。

今後は、その他のシステムも統合される計

画があると聞いています。そうなれば、やっとJTEKTとしての事業の基盤が統一された実感できるのではないのでしょうか。その日のためにジャーナル同様、皆様のご協力、ご支援をお願いします。(田原)

私が会社(旧光洋精工)に入社した頃は、軸受というのは内輪・外輪・転動体・保持器というたった4つの構成部品で成り立つ非常にシンプルな構造の商品がほとんどで、特殊品といっても外輪とフランジが一体化された程度のものでした。そんなシンプルな見た目とは裏腹に、その中身はHertzの理論やトライボロジー技術など、数多くの要素技術が注ぎ込まれており、見た目の派手さこそありませんが確実に日々進化し続けてきました。

昨今では、周辺構造を積極的に取り込んだユニット製品が開発されるようになり、「軸受も変わってきたな」と思っていたところ、旧豊田工機との合併によりJTEKTとなり、今後、更なる軸受の変貌を紹介していけたらと思っています。(川口)

JTEKT ENGINEERING JOURNAL

NO.1003 (2007)

発行 2007年3月

編集委員会 委員長 永田彰信 委員 榎俊光 奥良弘 加藤正直 川口敏弘 小林久修 齊藤晴彦 桜井清隆 下井隆司 杉本正記 高畑良一 田原和義 西田義一 野村達生 林寛 藤田大介 満丸道敏 楼黎明 Kevin QUIST 宮川正 安田典嗣 楼黎明 事務局 中野淳 奥村朋子 蔵留昭司 石橋仁也 今西ひとみ	発行人 伊藤寛 編集人 編集委員会 発行所 株式会社ジェイテクト 研究開発センター 〒634-8555 奈良県橿原市十市町333番地 Tel 0744 (29) 7040 Fax 0744 (29) 7049 印刷・製本 デジタル総合印刷株式会社 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30
---	---

© COPYRIGHT 2007 BY JTEKT CORPORATION

お願い：JTEKT ENGINEERING JOURNALの送付先の変更あるいは取消に関するご連絡は下記へお願いします。

営業本部 営業統括部 Tel 06(6245)6087 Fax 06(6244)9007